

成田市教育委員会会議定例会会議録〔会議概要〕

平成22年1月教育委員会会議：定例会

期日 平成22年1月20日（水） 開会 午後3時00分
閉会 午後5時26分
会場 成田市役所 5階 503会議室

出席委員

| | | | |
|-----|-------|----------|-------|
| 委員長 | 荒井 清 | 委員長職務代理者 | 小川 信子 |
| 委員 | 山口 恵子 | 委員 | 秋山 皓一 |
| 教育長 | 佐藤 玉江 | | |

傍聴人：0人

出席職員

| | | | |
|---------|-----------|-------------|--------|
| 教育長 | 佐藤 玉江（再掲） | 教育総務部長 | 関川 義雄 |
| 生涯学習部長 | 吉田 昭二 | 教育総務課長 | 坂本 公男 |
| 学校施設課長 | 堀越 慎一 | 学務課長 | 小館 修 |
| 教育指導課長 | 五十嵐 正憲 | 学校給食センター所長 | 古関 修 |
| 生涯学習課長 | 遠藤 英男 | 生涯スポーツ課長 | 遠藤 美代治 |
| 公民館長 | 和田 修 | 図書館長 | 山本 康秀 |
| 生涯学習課主幹 | 神崎 諭 | 教育総務課主幹（書記） | 金坂 昭夫 |

【 会議概要 】

1. 委員長開会宣言

2. 教育長報告

① 主催事業について

- ・ 12月28日 大会議室において市としての仕事納めの式を行なった。教育委員会としての仕事納めの式として挨拶をした。
- ・ 1月 4日 大会議室において市としての仕事始めの式を行なった。市長からは、成田市は抱えている問題が多く、自分たちの問題として仕事を考えて欲しい。スピード感のある仕事をして欲しい、税収が減る状況の中で職員一人一人が自分の仕事をどの

様にするかということを考えて欲しいと話があった。教育委員会の仕事始めの式では、「楽（らく）が良いか」「楽しい（たのしい）が良いか」という話をした。問題から逃げてしまえば楽（らく）になるが、頑張っていけばその先には楽しい（たのしい）になる。同じ字であるが意味が異なるという話をした。

- ・ 1月11日 成田市成人式を開催した。大きな問題も無く行なうことが出来た。式の後、講演会があり、楽しい話があったが聞く人が少なく残念であった。
- ・ 1月12日及び15日 教育長・校長人事面接を行った。各校長と来年度の人事について面接をし、各校長の人事構想並びに学校運営の進め方について聴取をした。
- ・ 1月12日 市民運動会実行委員会を開催した。新しい協議会の委員の構成並びに目的について説明し、了承された。今後、それぞれの団体より委員の選出があり、協議会が運営されることとなる。
- ・ 1月13日 校長会議を開催した。
- ・ 1月14日 学校給食施設整備検討委員会を開催した。給食センターの老朽化に伴い、今後の給食のあり方について検討をしていかなければならない。庁内に検討委員会を設置し、検討結果をたたき台として、将来の給食施設のあり方を検討していく。後ほど、学校給食センター所長からも報告する。
- ・ 1月18日 千葉県北総教育事務所長・校長面接が行われた。各校長から学校運営並びに平成22年度の人事構想について話をした。
- ・ 1月19日 教頭会議を開催した。
- ・ 1月20日 大字別地域事典編集会議を開催した。編集委員への委嘱状交付、役員の選出を行った。

②市議会について

- ・ 1月12日 教育民生常任委員会協議会を開催して頂いた。学校給食施設設備の方向性、考え方について、委員の皆さんに説明を行ない、意見を伺った。

③その他について

- ・ 12月21日 ユネスコ協会受賞祝賀会が開催された。文部科学大臣賞受賞の祝賀会に出席した。
- ・ 1月8日 新勝寺貫主に市長、副市長とともにあいさつをさせて頂いた。
- ・ 1月17日 第3回成田市民グランドバレーボール大会が開催された。レクリエーション的なスポーツで小学生から50歳代まで参加できる。ラグビーボールを大きくした様なゴムボールを5回までに相手コートに返すスポーツ。大栄が発祥地で、地区では盛んに行なわれている。現在日本グランドバレーボール協会会長は成田市の方である。

生涯学習課長：平成22年成田市成人式について関連して報告する。

1月11日成人の日に成田国際文化会館において開催した。今年度対象者は、平成元年4月2日生れから平成2年4月1日生まれで、1,456人であった。出席状況

は、男子の対象者は747人、内出席者は504人。女子の対象者は、709人、内出席者は、513人。合計で対象者が1,456人、内出席者が1,017人、出席率は、69.8%で昨年度より若干増えた。今年度の出席状況の特徴は、下総地区、大栄地区の出席率が昨年度より伸びているため、全体の出席率を押し上げた状況であった。内容については、オープニングセレモニーとして成田高等学校音楽部の演奏、式典、アトラクションとして松本隆博氏の「夢に向かって、ありがとうを仕事にしたい」という記念講演を行った。式典の後の講演会であったために聞く人が少なかった。来年の課題としたい。記念品は「ステンレスマグ」とした。

《 教育長報告についての主な質疑 》

委員：成人式について、毎年考えるが、何年か前に合同ひもときが役目を終ったということで廃止とした。成人式も半世紀が経ち時代が変わった。行政が主導しての成人式はもう止めても良いのではないか。

委員：女子は、1年前から着物を着て前撮りをし、親も本人も楽しみにしている。出席率も70%近くあり、廃止というのはどうかと思う。式をすることは親も楽しみにしているため、なくさなくても良いと思う。同窓会風に変えて行なってはどうか。

教育長：昔は式を終えてからホールに集まって、恩師を囲んでパーティーをしていた。そこで同窓会をしてもらうということを教育委員会が用意していた時代が長く続いたが、だんだん参加者が減って、友達同士でどこかに行ってしまうということで止めた。その後、様々な検討を加えて今の形となった。皆が集まってくる。来れば友達に会える。それが1番の楽しみとなっている。

委員：成人式は一生に一回であり、セレモニーとしても残して欲しいと思う。中学校単位で集まっているが、中学校卒業後5年経って集まっているいろいろな話をしていると思う。それを会場まで持って行ってしまふ。そこで静かにしろというのは無理がある。今年は講演を行なったが参加者が少なく、残念だったという話があったが、講演の内容を少し変えてみるのも一つの方法だと思う。親の立場から、大人の立場からの意見を聞いてもらうのも成人式の一つのあり方と思う。

委員：成人式について、事務局からも意見を聞きたい。

教育総務部長：見ていて感じたことは、運営の仕方をもっと工夫できるのではないかと考えた。座る席が学区ごとになっている。その時点で騒がしくなることは判っている。座る席を受付番号順にする。時間になれば入り口のドアを閉める。等工夫すれば良いと思う。また、今回講演会を聞く人が少なかったのは仕方がないと思った。それは、式が終わった後、来賓を始め多くの人が帰ってしまった。それを見て終ってしまったのかと思っても仕方がないと思う。もし講

演会も聞いて欲しいのなら、入り口を閉めてそのまま続ける必要があったと感じた。

教育指導課長：今回初めて成田市の成人式を見た。非常に多くの成人が来ているというのが第一印象であった。私は講演会に参加したが、成人で聞いている人は少なかった。講師について、松本人志さんの兄ということのを伏せていたが、前面に出した方が聞きたいと思った人がもう少しいたのではないかと思った。話の内容は非常に良い話で成人の人に聞いて欲しかった。

委員：成人式場で騒がしいのは本当に仕方がないと思う。久しぶりに会った友達と話をする。ある意味では同窓会である。15歳で別れて5年経って会ったというのもあり、それを静かにしろというのは無理がある。自分が出席した合同成人式は、大変厳かな式典であったという思い出がある。出席者も式典に参加しているという意識が強かったと思う。

式典を主催しているのは市であるから式典だけは市が仕切っても良いのではないかと思う。また、運営にはいろいろな方法が考えられる。幾つか意見があったが、検討するに際して参考にして欲しいと思う。

委員：校長の人事構想や来年度の学校運営等について面接があったが、学校に元気が無くなったといろいろなところでよく言われている。学校が背負い込む仕事は、本来の仕事の他に多くの仕事がある。地域や保護者からの要望等の仕事、行政などから要請された仕事があり、学校が何をするとところなのか目標を見失っている。また、政権が変わり、文部科学行政も目標を見失っている。教師の免許更新制度も無くなるという話がある。学力テスト等も全校で行われていたが3割抽出で行われるという。どこを見れば良いのか学校も目標を見失っているところがあるのではないか。そういう中で、学校がどの様なことで悩んでいるのか。何かあったら教えて欲しい。

教育長：校長との面接では、地域からの要望も多数あり、教師は大変だと校長は皆さん一様に言っていた。ただ地域なくして学校は無く、自分の思う学力向上の視点からの人事構想について、話を聞いた。

学務課長：人事面接の中では特に無かった。人事面接の主旨は自校が抱える課題解決、学力向上に向けて人事をどの様に考えるかを前提に話を聞いた。学校が様々担っている役割は在るものの、学校がなすべき基本は、基礎基本の徹底を図ることである。その中で、学校が学習指導にしっかり向き合えることができる学校体制を支援していくことが教育委員会の役割と考える。人事面接に同席して学校への応援をできる限りやっつけていかなければならないという思いを改めてした。

教育総務部長：話を聞いてよく思うことは、良きリーダーとなる人材が欲しい。自分の

学校で育てた良きリーダーを自分の学校に留め置きたいと願っている校長が多いと感じることである。リーダーを育てることは容易ではなく、そのリーダーが転出した場合、代わりとなる人材としてどのような人材が入ってくるのか分からないということがある。学校経営が切迫している状況の中でどのように運営していくか、また一から育てなければならないのかと様々な悩みを抱えている校長が多いと感じた。毎回面接して同様に感じている。

委員：ある校長と話をした時に、長期不登校児が大変多く、教師はその対応に追われ、授業の準備などの普段の業務ができない状況であり、担任一人では対応しきれないので人を増やして欲しいと悩んでいた。

委員：教師が本来の学習指導以外に時間をとられている現実も認めなければいけないと思う。

教育長：面接で多かったのが、普通学級に特別な支援を要する子が何人もいて非常に気を使っている。その子達の対応をして欲しいという要望があった。一人の担任だけに任せるのは無理があるので学校全体で対応して欲しいと話した。

委員：昔と比べると特別支援の子どもたちは増えているのか。

教育指導課長：特別支援を要する子どもは、市内に百六十数名いると思う。LD、ADHDを含め分類が細かくなっており、昔から比べると増えている形となっている。教師はそういう子ども達に痛みを感じさせないように接している。その分教師の負担が増えていると思う。それに対して、通常学級でADHDや高機能自閉症など特別に支援を必要としている児童生徒が複数在籍する場合などに特別支援教育支援員を配置している。

教育長：LDとかADHDとかアスペルガーというのは、私たちが子どもの頃は無かった。と言うか、そういう診断が無かった。その子どもが何で困っているのか分からなくて、親も子どもも苦労したと思う。昔もそういう子どもたちはいたと思うが、今の様に皆同じく学習能力を高めなければならないというのが無かったので、大きな問題とはならなかった。本当にLD、ADHD、アスペルガーだと、きちんと理解した人ばかりではないということが大きな問題である。障害をきちんと理解し、正しい指導をすることが大切だと思う。

委員：今回の人事異動希望の中で、学級担任や主任クラスで退職希望の傾向はどうか。早期希望退職者が増えているのではないか。早期退職者が増えれば新規採用者が増える。新規採用者に最初から部活ができないから部活をさせない、学級担任ができないから学級担任をさせない、させていないから、なおできなくなると悪循環が進行しているのではないか。同じように特別支援を要すると言うならば、本当は全員が特別支援を要する子どもということができるのではないか。どの子どももそれぞれ特徴があり、特別支援を要すると決め

付けてはならないと思う。障害を持っているからオブラートに包み大切にす
る。大切に色々なことをさせないために障害を増加させている場合もあ
ると思う。そういう中で、校長の人事構想は大切であると思う。校長には、
一人前の小学校、中学校の先生を育てる学校運営をして欲しいと思う。

学務課長：現時点で、退職予定者が25人いる。定年退職者が8人、残り17人が勸奨
退職者である。その大半が小学校の教師である。背景を見ると、小学校は中
学校と比べると加配教師が少ないため、どの教師も学級担任を最後までやら
なければならぬ厳しい環境にある。年齢とともに、子どもと一緒にプール
や体育をすることなど、色々なことが出来なくなってくる。行き詰まりを感
じていく中で、後進に道を譲ろうという決断をするに至ったと思う。

教 育 長：LD、ADHD、アスペルガーが一般的に知られてきたこともあり、親も学
校・教育関係もそうだが診断をつけたがる。しかし病名を付けることで、だ
から仕方がないと言ってしまう危険性について考えなければならない。
LDとはどういうものか。ADHDとはどういうものか、アスペルガーとは
どういうものかということ親も教師も我々も皆よく知っておかなければなら
ないと思っている。逆に知らなかった時の方が、実は上手くいっていたよ
うに思える。

委 員：今思うと教えていて、あの子は多動性なのかと思うが、あの当時はそうい
うことばが無かった。今の考え方で言うと、座れない子に座れと言っていた
ことが残酷なことをしたと思う。逆にあまりにも細かく分類されると、あれ
もだめ、これもだめとなってしまう、親も教師もがんじがらめになっている
様に思える。

委 員：教師は、特別支援をする目をもって毎日の仕事に当たる。それが学級経営で
はないかと思う。校長にお願いしたいことは、新しくなった教師を如何に育
てていくかということ。それをまず考えて欲しいということである。

3. 報告事項

① 報告第1号 市有財産の取得について

教育総務課長 報告資料に基づき報告

(要旨)

平成23年7月のテレビ放送の完全デジタル化に対応するため、また、国が進めてい
るスクールニューディール構想の学校ICT化を推進し、分かりやすい授業を実現し、
子ども達の情報活用能力の育成を図るため、デジタル放送対応テレビ、電子黒板を整備
する。報告資料のとおり、仮契約し、平成22年3月議会に提案する。

《 報告第1号についての主な質疑 》

委員：小中学校電子黒板が小学校31台中学校7台となっているが、中学校は9台ではないのか。

教育総務課長：下総中学校、大栄中学校には整備済みのため、下総中学校、大栄中学校を除く7中学校である。

委員：家電量販店からの購入は考えなかったのか。

教育総務課長：これについては、国の経済対策の関係があり、市内の業者に限定した。

委員：約9千万円と約1千6百万円の契約であるが、市内の業者の競争入札か。地方の活性化という意味で地方の業者から選定するように国からの指導は何かあったのか。

教育総務課長：全て市内業者の競争入札である。指導は無いが、一部の補助金について、地域活性化という形で補助金をあてるので、市内の業者に限定した。

生涯学習部長：関連で報告する。契約金額が少ないため今回報告に入っていないが、公民館にも同じ事業で13ある公民館に1台ずつ地上デジタル放送対応テレビを購入する予定である。

教育総務課長：大栄幼稚園にもこの事業で2台購入する予定である。

② 報告第2号 給食施設整備基本計画について

学校給食センター所長 報告資料に基づき報告

(要旨)

給食施設整備基本計画の策定に係る中間報告をする。

給食センターの現状について、玉造の現施設は、設備のほとんどが耐用年数を経過し、全体的にかなり老朽化が進んでいる。修繕費が過去5年間で9、300万円と高額になり、文部科学省の示す安全衛生基準にも合致しない項目が多くなっている。今後突然調理ができないということもあり得る状態であるため、22・23年度の2ヶ年をかけて現施設の必要最低限の設備を更新し、新たな施設を整備するまでの暫定的な対応を行う。

基本計画の説明をする。本計画は学校適正配置案を踏まえ、児童生徒にとって安心安全でより良い給食を提供できる新たな施設を整備することを主眼とし、内容としてはアレルギー対応、喫食時間クリア、食育、地産地消の推進などができる施設の整備を基本に考えた。

この基本計画の策定に当たっては、埼玉県戸田市、神奈川県川崎市、千葉県佐倉市など先進地の視察を行い、給食センター内で調理方式を比較検討し、それを更に教育総務部で3度の検討会を行い、様々な議論を行なったが、教育委員会としては、現在300名以上いるアレルギーを持つ児童生徒に対応できること、文部科学省が定める基準のひとつに、作り終えてから食べ終わるまでの時間が2時間以内とあるが、これを可能にでき、温かい食事が提供できること、これらを達成するため自校方式で整備するとした。

その後、教育委員会の結論を踏まえ、2度の庁内検討部会において関係課長と協議を

行った。部会では、理想形は理解するが財政事情もあり自校方式で整備することは困難であるとの見解が示された。

部会の後、1月12日に開催した教育民生常任委員会の協議会に報告をした。協議会では、子どものためによりよい施設整備を考え、自校とすべきだ、食育の位置づけをしっかりと、という意見と、財政状況も考慮し、且つ長期的な計画で進めるべき、という意見が出された。

また、1月14日に開催した関係部長で組織する庁内検討委員会では、財政状況を踏まえつつ、アレルギー対応、温かな給食の提供を可能にする方式で整備していくべきとの意見が出された。また今後、アレルギー対応をする場合、どの程度の食数が最適か調査を行うこととなった。

今後、年度内には整備方針を決定したいと考えている。

《 報告第2号についての主な質疑 》

委員：資料7ページの用地費のところ、センター方式の江弁須基金用地とあるのは何か。

学校給食センター所長：消防の公津分所を建設した残地である。面積は約1万平米以上あり、傾斜地で多少造成する必要があるが面積的には充分である。基金で買っているため、土地を使うためには予算で買戻しをする必要があるためである。

委員：いずれにしても施設が老朽化しているため、早く解決したい。施設整備検討委員会でこれからまだ検討されていくわけですね。

学校給食センター所長：年度内に決定したい。今後、2月3日に施設整備検討委員会を予定している。

4. その他

生涯学習課長：台方宮代遺跡現地説明会について資料に基づき報告する。

(要旨) ニュータウンスポーツ広場整備事業に先だって、財団法人印旛郡市文化財センターが実施している発掘調査について、発掘現場現地説明会を開催するのでお知らせする。日時は、平成22年1月30日土曜日 午後1時～3時 場所は、成田市台方字上宮代1415他。内容は、発掘現場で出土した遺構・遺物について印旛郡市文化財センター調査員が説明する。出土した遺構は、古墳3基(円墳)、弥生時代から平安時代の竪穴住居跡。特に比較的大きな円墳である1号墳からは、2基の埋葬施設(木棺直葬)が出土した。副葬品には、石枕、刀子形石製模造品(鞘に入れた刀子を模したもの)、有孔円板(鏡を模したもの)、直刀などが出土している。特に石枕は、昨年度調査した同一台地上の船形手黒1号墳でも出土している。

図書館長：仮称「大字別地域の事典」編集委員並びに構成について、資料に基づき報告する。

(要旨) 12月定例会で編集委員会について報告したが、編集委員について改めて報告する。編集委員は6人、第1号委員、学識経験者として2人。第2号委員、成田市史調査員として2人。第3号委員、市政に関し識見を有する者として2人をお願いした。

構成については、地域・大字の歩み、地域の事典、碑文紹介の3部構成で記述する。本日委嘱状を交付し、第1回の編集委員会を開催した。

公民館長：千葉ガス株式会社より中央公民館と成田公民館にガステーブルコンロ及びオーブンレンジの寄贈があったので、資料に基づき報告する。

(要旨) ガス事業法の改正により、全てのコンロのバーナーに調理加熱防止装置、立ち消え安全装置の搭載が義務づけられた。全口安全センサー搭載コンロをISセンサーコンロといい、この安全装置に加え、自主的にコンログリル消し忘れ消火機能も搭載している。千葉ガス株式会社として、安全ガス器具の普及促進、周知活動の一環として、千葉ガスを利用している公民館に使用しているガスコンロの代替品として寄贈された。成田市教育委員会表彰内規により感謝状を贈る。

教育指導課長：教育指導課から3点報告する。

(要旨) 1点目、英語科研究開発事業について。成田市は、小中学校ともに英語科研究開発事業により、英語の授業をとおして子ども達の英語のコミュニケーション能力の基礎を育成してきた。成田中学校区の小中学校は、「英語教育改善のための調査研究校」として、文部科学省から指定を受け、それ以外の小中学校は、教育課程特例校として、英語科を設置し、英語の授業を行なってきた。来年度の英語科の研究開発については、成田中学校区の小中学校の文部科学省からの指定が、国の行政刷新会議の事業仕分けで、「英語教育総合プラン」が廃止となることから「英語教育改善のための調査研究校」として指定されなくなる。そのため成田中学校区の学校も含めて、市内全ての小中学校が、教育課程特例校として、英語の授業を行う方向で、現在、文部科学省と千葉県教育委員会と協議されている。また、これまで外国語指導助手は、小学校は市独自で雇用し、中学校は、株式会社インタラックへ業務委託という形をとってきた。来年度の外国人指導助手は、中学校も市独自で雇用し、小中学校ともに市独自で雇用することとした。

2点目、学力調査事業について。昨年度まで実施されていた全国学力状況調査が、国の事業仕分により、全校実施から抽出校での実施となった。成田

市からは、小学校5校、中学校4校が抽出された。3年間実施された全国学力状況調査は、学力と生活状況の相関を客観的に分析できたことにおいて有意義なものであった。しかし、次年度以降、抽出されない学校においては、学力と生活状況の相関を把握することができなくなった。そこで、次年度より、これまで実施してきた千葉県標準学力検査に変わる新たな検査を導入し、学力と生活状況の相関関係を調査し、学習面と生活面の両面から学力向上を目指した取り組みを行っていくこととした。

3点目、インフルエンザについて。1月7日から新学期が始まったが、本日現在3校3学級が学級閉鎖となっている。1月7日の状況は33人がインフルエンザに感染していたが、1月15日の段階で55人となっている。今週に入ってから小学校で2校2学級、中学校で1校1学級が閉鎖となった。少しずつ増えている状況である。全てA型で新型と思われる。これから季節性インフルエンザの季節となるが、感染が拡大しないように、各学校には手洗い・うがい等の指導をする様に依頼している。

5. 委員長閉会宣言